

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人 小羊学園

〒431-1304

静岡県浜松市北区細江町中川7440-1

電話：053-437-0826 FAX：053-437-0849

E-mail kohituji@imix.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松 義人

印刷所：聖隷サービス(有)

定 価：一部 30 円

2007年10月20日

第 297 号

秋の日の来園者

理事長 稲松 義人

先日のこと、ある会社の社長さんが学園を訪ねて来られました。昔から小羊学園のことを大切に思ってください、これまでもときどき訪ねて来られることがありました。

「社長さん」というイメージとしては経済的にゆとりのある人を想像されるかも知れませんが、実際には今の時代、経営の責任をもつ立場の人は、まして喰うか喰われるか、厳しい競争社会の中で闘っておられる企業の経営者は、私どもには想像もつかないご苦労があるのだらうと思われます。お話を伺うと、やはりご自分の会社の経営もかなり大変なのだという話でした。前回のつのはえの記事をご覧になって、住む世界は違っても同じ経営の責任者として、苦境にたつ私の立場に共感を覚え、きっと激励に来てくださったのだらうと思います。

その前の日でした。地元のN小学校の四年生約三〇人が見学に来られました。最初に小羊学園について簡単に説明をし、建物の中を案内し、その後、子どもたちから出される質問に私が答えるという、一時間ほどの校外学習のプログラムでした。

一人の子から「どうして小羊学園は、『学園』というのですか。」という質問を受けました。学校でもないのにどうして「学園」なのですかという意味だと思われましたので、「小羊学園が仕事を始めた四〇年前には、重い障がいのある子どもたちは、学校に入れてもらえませんでした。それは、知的障がいのある子は学校に行っても勉強ができないし、卒業しても社会に出て一人前の仕事をすることはできないだらうと思われたからだと思います。

でも、たとえ知的障がいがあっても、ご両親は子どもたちが少しでも成長して欲しいと願っておられましたし、私たちもまた、知的障がいがあっても少しでも勉強や仕事ができるようになってほしいと思っていました。それで知的障がいの子どもや大人の施設には『〇〇学園』というところがたくさんあるのだと思います」と答えました。

別の子は「どうして『小羊』という名前なのですか。」と質問しました。これには、「キリスト教の聖書の中に、迷子になった一匹の小さい羊の話があるので、羊飼いはこの一匹を大切に思って一生懸命探したというお話です。これと同じように、私たちも社会の中で助けてくれる人がなくて一番困っている人たちのための仕事をしたいと、小羊学園の創立者が考えたからです。」と答えました。そして最後に、私から小学校四年生

の皆さんにお願いをしました。「みんなは、小羊学園で生活しなくてもよい人たちです。まだまだ自分でも知らない色んな力をもっているでしょう。ですから、その力をもっともって伸ばしてください。でも、それは自分が人よりも幸せになるためではなく、世界の人みんなが幸せになるためだということをおわってください。自分が得することばかりを考える人ではなく、困っている人のことも考えることができる人が増えたら、きっと小羊学園の人たちも同じように町で暮らせる日がくると思います。

また、皆さんがこれから先、何かに行き詰って、自分はどうだめだと思ふようなことがあったら、小羊学園の人たちを思い出してください。どんなに重い障がいをもって生まれてきても、精一杯生きている人たちがいることを是非思い出してください」と。

社長さんと創立者である山浦先生の思い出話をするうちに、社長さんの目にうっすらと涙が浮かびました。涙の訳は分かりません。重い障がいのある人たちが暮らすこの学園には、精一杯突っ張って、頑張って生きている硬くなつた心をほっとさせてくれる何かがあるのかも知れないと思います。

そして実は、私自身が社会の役に立ってないと思われている人たちに、支えられて生きているのだとあらためて思わされたのでした。

つばさ静岡



開設二周年迎えて

前号まで、小羊デイケアホーム、支援センターわかぎ、浜松市の南部での事業展開について紹介してきました。今回は、初めて静岡市内に開設した重症心身障害児施設「つばさ静岡」が開設から二周年となりましたので、最近の様子について、山倉慎二所長に聞いてみたいと思います。

聞き手 つばさ静岡は、開設からちょうど二年が過ぎたということになりますが、二年経って入所されている利用者の皆さんの生活ぶりは、どんな様子でしょうか。

山倉所長 この二年という時間はほんとうにあつと言う間で、二年も経ったとは未だに信じられないくらい気持ちです。これまで利用者の皆さんやそのご家族の方にたいへんご迷惑をおかけしながら、そしてご支援、ご協力をいただきながら、なんとかやってくる事ができました。この場をお借り



2周年記念イベント 音楽につつまれる

してお詫びと、御礼を申し上げたいと思います。

さて、二年が経過したつばさ静岡の様子ですが、発足当初とは見違えるように落ち着き、安定し、毎日楽しそうに生活をしています。どのゾーンを訪ねても、音楽が流れ、歌声を耳にし、楽しそうな笑い声が聞かれます。利用者さん、そして職員が、この施設にすっかり馴染んで、ここが家であり、それぞれのゾーンが家庭であり、同じゾーンの利用者、職員が全く家族であるかのような関係が築かれつつあるようです。まだまだ完成した姿とは言えませんが、日々、明るく楽しく、そして平和に過ごしていけるような施設になってきたと感じています。

聞き手 つのぶえ紙面でも、ずっと看護師さんの募集をお願いしたのですが、現状では職員の人数は足りているのでしょうか。

山倉所長 一時期は看護師不足のため、たいへん危機的な状況に置かれました。その節はたいへんご心配をおかけしたのですが、幸い夏以降数名の方が就職して下さり、現在はなんとか看護師の充足ができました。しかし、これから春までに結婚等で退職される方が決まっており、決して余裕のある状況ではありません。引き続き重症児医療に携わってくださる看護師さんをお願いしましたら、ご紹介いただけると幸いです。

聞き手 通所部門「わたぐも」の様子はどうでしょうか。利用希望の方が増えてきているのではないかと思われるのですがいかがですか。

山倉所長 通所部門「わたぐも」も毎日とてもにぎやかに活動しています。「わたぐも」は利用者の方の障害像が幅広く、職員もたいへんなのですが、大きく三つのグループに分かれ、こちらもそれぞれに職員、利用者ともにたいへん仲よくやっています。散歩や車に乗ってのドライブ、施設内でも室内活動だけでなく、野菜作りの庭園活動、夏にはプールと日々みなさん楽しそう

です。「わたぐも」は一五名が定員の重症児者のA型通園という事業形態で、養護学校卒業後の活動場所としての位置づけになります。現在、ほぼ定員いっぱいですが、養護学校を卒業される方は毎年おられます。来春も高校卒業後に「わたぐも」を希望されている方が三名おられ、その方たちをどのように受け入れていこうかと頭を悩ませていきます。来春はなんとかなくても、その翌年、翌々年となると今の状況ではどうにもならないというのが実情です。この点に関しては、今後行政と相談しながら取り組んでいかなければならない課題だと考えています。

聞き手 つばさ静岡は、小羊学園としては初めて静岡市内での事業になりましたが、静岡の地域の方々との関係は広がっているのでしょうか。

山倉所長 まず「つばさ静岡」のシヨートステイの状況をお知らせしたいと思います。現在、登録者は一七〇名に及び、そのうち四分の一の方が医療的ケアを必要とされる方で、人工呼吸器を使用されている方も七名おられます。地域を見ましても、静岡市周辺だけでなく県東部からの利用も十数パーセントあります。また最近では県西部から静岡までシヨートステイに来られるという方も増えていきます。そういう意味では確実に地域に認知されつつあ



2周年記念イベント 土とたわむれる（陶芸）

ると喜ぶべきなのかもしれませんが、現在ショートステイのベッドはパンク寸前の状態です。

また近隣の方々との交流という意味では、これまでも映画会や一周年祭など、一般の方にも自由に参加していただけるようなイベントを企画してきました。さらに今年の春には「フェスタつばさ」と称してフリーマーケットや演奏会などを取り混ぜた地域交流型のイベントを開催しました。これは毎年恒例の行事にしていきたいと考えています。

聞き手 今回、二周年記念行事は、周りの人たちが関わって、楽しい企画

を準備されましたが、何か、つばさ静岡として意図するところがあったのでしょうか。

山倉所長 これまでのイベントを振り返ってみると、地域から多くのボランティアの方が手伝って下さいました。最近ではイベントがなくてもボランティアをして下さる方や施設を応援して下さる方が増えています。ただ、中には彼らとどのように関わったらよいかかわからない、何をすればいいのかを教えて欲しい、もっと彼らのことを知りたい、という声も聞かれます。そこで今回は、もっと重症心身障害児者を知ってもらえるような、また関わり方のヒントになるような企画を集めて二周年の記念行事としました。一週間という少し長い期間を設け、その間はいつ来ても何かをやっているという体制にしました。気軽に「つばさ静岡」に足を踏み入れていただいて、何か新しい発見につながれば大成功だと思っています。（このインタビューは、イベントの直前にしました。）

聞き手 最後に、つばさ静岡で課題となっていることと、これから取り組みについてお聞かせくださいませんか。

山倉所長 まずは、重症心身障害児の医療連携の確立です。こども病院が

その性質上、成人期以降の重症児の医療に消極的です。この方向性はある意味仕方ないことだと思えます。しかし、重症児はその原因が小児期にあり、成人までの経過をずっと小児科で見てもそのとまどいの大きさは計り知れませんが、またその受け皿となる内科（他科も）の医師やスタッフも同じでしょう。現在、重症児者は長寿化、重症化の一途にあります。そこでなんとかスムーズに成人医療に移行できるように連携の確立が早急に必要です。また重症児、特に人工呼吸器を使用しているなどの超重症児の幼少期の養育を担当できる施設が県中部にはありません。その領域でも「つばさ静岡」は中心となって



2周年記念イベント 花とふれあう

開拓していかなければならないと考えています。さらに在宅支援としては重症児者の訪問介護や看護など、重症児医療関連の需要、要望だけをみても問題は山積みです。一度に何もかもというわけにはいきませんが、まずできることとして、この秋から、重症児の栄養、摂食の外来をはじめます。このように徐々にではありますが、重症児の療育の拠点として「つばさ静岡」が認知されるよう全力を尽くしていきたいと思っています。これからもよろしくお願いたします。

聞き手 ありがとうございます。

つばさ静岡・看護師募集

つばさ静岡では、引き続きの看護師を募集しています。心身に重い障がいがあり、医療的な介護を欠くことのできない人たちのための入所施設です。彼らの命の輝きに出会うとき、きっと新しい何かに気づくことができると思います。私たちと一緒に働いてみませんか。どなたかお心当たりのある方もご一報くださると嬉しいです。

連絡先 つばさ静岡

（静岡市葵区城北一七）

電話（〇五四）二四九一八三〇

担当：羽山（事務長）

「コミュニティの再生をめざす」④
**同じところぞしをもつ
 人たちが連帯して
 良い制度を提案したい**

小羊学園のように入所施設を利用できることが、障がいのある人たちにあって理想的な人生だとは、私たちが決して思っていません。そういう意味で地域社会の中で暮らせるようにしてあげたいという目標は、国が示している障害者福祉のあり方と違っていません。ただ、今のままでは、地域社会の中で安心して暮らすには、あまりにも不安や不便が多すぎるのです。

具体的には、小羊学園を出て、ケアホームやグループホームのようなどころに住み、小羊デイケアホームのようなどころに日中通う生活をめざしたいと思っても、支援者の確保の面や、緊急の場合の対応、アクセスの問題、等々、難しい問題がまだまだいくつもありません。これを解決するためには、小羊学園だけの努力では到底実現できないのです。

浜松市内の事業者と浜松市手をつなぐ育成会（家族の会）が協力して、グループホーム・ケアホームについて考えるフォーラムを開くことになりました。このように同じ願いを持つ人たちが力を合わせて、社会に訴えていくことがたいせつだと思っています。

グループホーム・ケアホームの未来を切り拓く
はままつフォーラム

日時：2007年11月17日（土）午後1時半～5時
 場所：浜松市福祉交流センター大会議室（浜松市中区）
 主催：浜松市手をつなぐ育成会、はままつフォーラム実行委員会
 1部：講演「グループホーム・ケアホームのこれからの課題と展望」
 講師 室津茂樹氏（日本グループホーム学会代表）
 2部：シンポジウム
 シンポジスト 浜松市障害福祉課長 鈴木喜晴氏
 浜松市手をつなぐ育成会 安藤幸枝氏
 (福)小羊学園 稲松義人氏
 (福)みどりの樹 柴山由美子氏
 (福)天竜厚生会 小杉祐介氏
 コーディネーター (福)ひかりの園 高木誠一氏
 助言者 聖隷クリストファー大学 山本 誠氏
 参加費 1,000円、定員 100名（申込み必要）
 お問い合わせ (053) 430-0596（浜松協働学舎：櫻井）

《ご報告》

理事・監事の改選を行いました

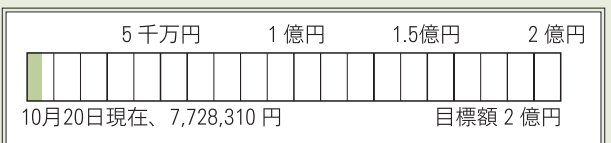
法人理事、監事の任期満了のため、先日の評議員会で改選を行い、新しい任期の法人役員として次の方々を選出いたしました。

- 理事長 稲松義人（留任、小羊学園児童寮・青年寮施設長）
 理事 津幡佳伸（新任、聖隷福祉事業団常務理事・聖隷厚生園園長）
 理事 羽山 純（新任、つばき静岡事務所長）
 理事 古橋克己（留任、小羊学園を支える会）

支える会だより

移転改築のために特別募金の報告

10月には、皆様のところにも特別募金のお願いのお手紙を送らせていただきました。厳しい中で生活しておられる方もおられるだろうと思うと申し訳ない思いもいたします。しかし早速、何人かの方からご献金や励ましのお手紙をお送りいただき、本当に感謝です。小羊学園家族会では、会として協力することを申し出てくださり、今後の募金活動に勇気を与えられました。感謝をもって中間報告をさせていただきます。



小羊学園・移転改築計画にご協力ください

（口座名義）「小羊学園を支える会」
 郵便振替口座 00890-4-45415
 リソナ銀行浜松支店（普通）040005
 静岡銀行細江支店（普通）043483
 必要があれば、募金のお願い（振込用紙）を、お送りいたします。下記へご連絡ください。

問い合わせ先：小羊学園
 〒431-1304 浜松市北区細江町中川 7440-1
 電話 053-437-0826

編集後記

昨日、ご高齢の女性が小羊学園を訪ねて来られました。地元の細江町に住まいの方で、今年米寿を迎えられたとのことで、市からの祝いをもらったのでその一部を小羊学園のために使ってくださいとお持ちくださったのでした。ずっと以前にはボランティアにも来てくださっていたとのこと、その頃の思い出もお話くださいました。私たちの気がつかないところで応援してくださる方がいらっしやることを知らされることは何と大きな励みでしょう。私たちが皆様のご健康と平安をお祈りしたいと思えます。（一）